

作成 2011年 4月1日

(MSDS)
製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 アロシット28. 15T 主材
 整理番号 117-1-0-2-0
 会社 A & Eシステムズジャパン株式会社
 住所 石川県金沢市湊2-120-15
 TEL 076 - 255 - 0461
 FAX 076 - 255 - 0462
 推奨用途及び使用上の制限：重防食材用

2. 危険有害性の要約

物理化学的危険性

分類対象外 可燃性（引火性ガス）・可燃性（引火性エアゾール）
 支燃性（酸化性ガス類）・高圧ガス・可燃性固体・自然発火性固体
 酸化性固体

分類できない 火薬類・自己反応性化学品・自然発火性液体・自己発熱性化学品
 水反応可燃性化学品・酸化性液体・有機過酸化物・金属腐食性物質
 発がん性・生殖毒性
 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露：肝臓・腎臓・中枢神経系）
 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露：呼吸器・神経系・全身毒性）

健康に対する有害性

分類対象外 急性毒性（吸入：ガス）

区分外 急性毒性（経口）・急性毒性（経皮）・急性毒性（吸入：蒸気）
 急性毒性（吸入：粉じん）・急性毒性（吸入：ミスト）
 呼吸器感作性・皮膚感作性・吸引性呼吸器有害性
 生殖細胞変異原体

区分 2 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分 2 皮膚腐食性・刺激性

区分 3 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露：気道刺激性・麻酔作用）

環境に対する有害性

区分 1 水生環境急性有害性・水生環境慢性有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

わずかに引火性がある。
 有機溶剤中毒を起こす恐れがある。
 軽度の皮膚刺、強い眼刺激、発がんの恐れへの疑い。
 生殖能または胎児への悪影響の恐れ、臓器（肝臓、呼吸器、腎臓、中枢神経系）の障害。
 長期にわたる、または、反復暴露により臓器（呼吸器、神経系）の障害。
 水生生物に毒性、長期的影響により水生生物に有害。

注意書き

安全対策

熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること（禁煙）。
 容器を接地すること（アースをとること）。
 防爆型の電機機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 使用前に取扱い説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
 粉塵、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 取扱後は手をよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 環境への放出をさけること。
 容器を密閉しておくこと。

応急措置

皮膚又は髪に付着した場合は、直ちに汚染された衣類を全て脱ぎ、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗ったのち、中性石鹼を使ってよく洗い落とすこと。かゆみ、炎症などの症状が出た場合、速やかに医師の診断を受けること。
 火災の場合には、炭酸ガス、泡、粉末消火器を使用すること。
 暴露した場合、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 眼に入った場合、清浄な水で最低 15 分間洗浄したのち、直ちに眼科医の手当てを受けること。洗顔の際、まぶたを指でよく開いてまぶた、眼球のすみずみまで水がよく行き渡るように洗うこと。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

漏出物は回収すること。

保 管 容器は密閉して涼しく換気の良いところに保管すること。
施錠して保管すること。

廃 棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名 エポキシ樹脂

成 分	CAS-No.	濃度%	官報公示整理番号	P R T R法
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	25068-38-6	40~50	7-1279	—
ポリアミン	120026-50-8	<1	—	—
1-メトキシ-2-ヒドロキシプロパン	107-98-2	<1	2-404	—
シクロヘキサノン	108-94-1	<1	3-2376	—

分類に寄与する不純物 データなし
及び安定化添加物

4. 応急措置

吸入した場合 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。
気分が悪い時には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とすこと。溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化が見られたり、刺激痛がある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
汚染された衣類を取り除くこと。

目に入った場合 直ちに、大量の清浄な流水で15分以上洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
出来るだけ早く医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合 誤って飲み込んだ場合には、安静にして、直ちに医師の診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

予想される急性症状及び 遅発性症状	吸入：目まい（症状は遅れて現れることがある）。 皮膚：皮膚の乾燥。 経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐。
応急措置をする者の保護	適切な保護具（保護メガネ、保護マスク、手袋等）を着用する。 換気を行う。
医師に対する特別注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	炭酸ガス、泡、粉末。
使用してはならない消火剤	水（棒状放水、高圧水）。
特有の消火方法	危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。 可燃性の物を周囲からすばやく取り除く。 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。 消火活動は風上より行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 （保護具及び緊急措置）	作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、 ゴーグルなど）を着用すること。 周囲を立入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして 二次災害を防止すること。 付近の着火源・高温体および付近の可燃性をすばやく取り除く こと。 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備すること。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	漏出物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理すること。
封じ込め及び浄化方法・機材	付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。 漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移すこと。 衝撃、静電気に備えて火花が発生しないような材質の用具を用 いて回収すること。 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収すること。 大量の流出は盛土で囲って流出を防止すること。
二次災害の防止策	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 眼にいれないこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 蒸気、スプレーを吸入しないこと。 環境への放出を避けること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管	技術的対策	消防法の規則に従う。
	混触危険物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	保管条件	酸から離しておくこと。 塩基から離しておくこと。 酸化剤から離して保管すること。 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
	容器包装材料	データなし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	_____	
許容濃度 (暴露限界値、生物学的暴露指標)	データなし	
設備対策	容器及び受器を接地／結合すること。 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 作業者が直接暴露されない設備、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。	
保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び 身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。	

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状：高粘度液体 色：灰色 臭い：溶剤臭あり pH：データなし
融点・凝固点	データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	沸騰範囲：データなし
引火点	200℃
自然発火温度	データなし
燃焼性（固体、ガス）	情報なし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度	データなし
比重（密度）	1.75（20℃）
溶解度	水：不溶 酸、アルカリ：情報なし
オクタノール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率（導電率）	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	わずかに引火性のある液体。 有機溶剤中毒を起こす恐れがある。 軽度の皮膚刺。強い眼刺激。発がんの恐れが疑い。 生殖能または胎児への悪影響の恐れ。 臓器（肝臓、呼吸器、腎臓、中枢神経系）の障害。 長期にわたる、または、反復暴露により臓器（呼吸器、神経系）の障害。 水生生物に毒性。長期的影響により水生生物に有害。
避けるべき条件	高温を避ける。 衝撃を避ける／振動を避ける。
危険有害な分解生成物	低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。 一酸化炭素などの有害ガスが発生する。

1 1. 有害性情報

急性毒性 経口 LD₅₀ ラット：エポキシ樹脂 10000mg/kg

皮膚腐食性・刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷・刺激性

目に対して、蒸気、液ともに弱い刺激がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

データなし

生殖細胞変異原性

発がん性

データなし

データなし

生殖毒性

特定標的臓器

・全身毒性（単回暴露）

特定標的臓器

・全身毒性（反復暴露）

吸引性呼吸器有害性

漏出、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意すること。

特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に流れないように対処すること。

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性

区分1

水生環境慢性有害性

区分1

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。容器、機器装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報 航空規制情報 U N N o.	I M Oの規定に従う。 I C A O・I A T Aの規定に従う。 ——
国内規制	陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報	消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。
特別安全対策		移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号		——

15. 適法法令

労働安全衛生法	変異原生化学物質（通達による指導物質）
消防法	第四類 第三石油類 危険物等級Ⅲ
船舶安全法	可燃性物質類
航空法	データなし
港則法	可燃性物質

16. その他の情報

- 参考文献 1) ICSC (2002) 2) Merck (13th, 1996) 3) IMDG (2004) 4) ホンメル (1991)
 5) SRC (2005) 6) HSDB (2005) 7) Lange (16th, 2005) 8) PATTY (4th, 1994)
 9) IUCLID (2000) 10) ACGIH (2001) 11) RTECS (2005) 12) HSPS (2001)
 13) SITTIG (47th, 2002) 14) ICSC (J) (1998) 15) Chapman (2005)
 16) Lange (16th, 2005) 17) GESTICS (2005) 18) Howard (1997)
 19) Weiss (2nd, 1986) 20) DFGOT vol. 12 (1999) 21) Verschueren (4th, 2003)
 22) CERl ハザードデータ集 (2000) 23) IARC MONOGRAPHS SUPPLEMENT 7 (1987)
 24) SIDS (2004) 25) ECETOC TR48 (1992) 26) ATSDR (1992) 27) CaPSAR (1999)
 28) SIAR (1997) 29) SAX (11th, 2004) 30) 産衛学会勧告 (1993)
 31) 有機化合物辞典 32) IRIS (2003) 33) 環境省リスク評価第3巻 (2004)
 34) ALGY 学会 (感) 物質リスト (案) 35) EHC 143 (1992) 36) EU-Annex I
 37) Gangolli (2nd, 1999) 38) NICNAS (1994) 39) NTP TR490 (1999)
 40) IAR (1982) 41) J Occup Health 45:137-139 (2003)
 42) Eur Respir J. 25(1):201-204 (2005) 43) CICAD 3 (1998) 44) NTP TOX-49 (2004)
 45) 危険物DB (第2版, 1993) 46) IARC 65 (1996)
 47) 溶剤ポケットブック (1996) 48) Ullmanns (E) (5th, 1995)
 49) IRIS (Access on Aug 2005) 50) 環境省生態影響試験 (1996)
 51) PHYSPROP Database

- ◆ このMSDSは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実施を対象にしたものです。
 記載内容は、現時点で入手した資料、情報データに基づき作成しておりますが、危険、有害性に関する評価は必ずしも十分なものではありませんので、取扱いには十分注意してください。
- ◆ このMSDSは、法令の改正新見により予告なく改定することがあります。
- ◆ このMSDSは、国の規制を含む(社)日本塗料工業会の基準に基づくものでありますが、地方自治体の規制情報は含まれておりませんので、当該自治体の規制に従って対処してください。
- ◆ PRTR政令番号は、新政令番号にて記載しています。